



発行
日本共産党
寝屋川議員団
072-824-1181
FAX:824-7760
No.3500

寝屋川市議員
中林かずえ
宝町4-33
090-3944-8385

寝屋川市議員
松尾信次
下木田町12-6
090-3056-9924

寝屋川市議員
西田まさみ
石津中町30-3
090-9713-3588

前寝屋川市議員
太田とおる
高柳2-49-2
080-3818-9722

マイナ保険証でなくても 医療は 受けられます

「保険証の廃止は問題」 中林議員が主張

マイナ保険証以外の人に「資格確認書」を毎年発行

9月2日、9月議会

の健康福祉常任委員会
で国民健康保険条例の
一部改正について審議
が行われました。

以下、中林かずえ議
員が行った質問の主旨
を紹介します。

◇ ◇

今回の条例改正は、
昨年の法改正によるマ
イナンバーカードと健
康保険証の一体化(紐
づけ)のため、現在の国
民健康保険証を12月2
日以降は廃止するため
の条例改正です。

法改正後もマイナ保
険証(マイナンバーカー
ドと一体化した保険証)
によるさまざまな問題
が起り、現行の保険
証の廃止に反対する意
見が多数を占めていま

本市のマイナンバー
カードの発行率(市民
が申請)は73.7%です

船員保険 資格確認書	本人(被保険者)	
記号XXXXXXXXXX	番号XXXXXXXX	校番XX
氏名	XXX XXXX XXX XXXX	
生年月日	平成X年X月X日	
性別	男	
資格取得年月日	令和X年X月X日	
有効期限	令和11年11月30日	
保険者番号	02130011	
保険者名称	全国健康保険協会船員保険部	
保険者所在地	東京都千代田区富士見2-7-2	

資格確認証(保険医協会資料イメージです)

マイナ保険証でなく
ても医療は、今までと
変わらず受けられます。
まず、今年10月末に
は、11月1日付の現行

資格確認書は 現保険証と同じ

「資格確認書」は、現
在の保険証と名称が違
いますが、形も記載事
項も同じです。

寝屋川市は、今まで
通り毎年11月1日付で
「資格確認書」を発行し
ます。

ただ、12月2日以降、
新たに国民健康保険に
加入する市民で、マイ
ナ保険証でない市民に
は「資格確認書」が発行
されず。

が、保有率(実際に利
用できるカードが手元
にある)は68.7%です。
その差約1万1000
人(7月末現在)は、
5年に1回の更新がで
きていないためカード
が活用できない人や、
発行申請をしても市役
所にカードをとりきに
ていない市民がいるこ
とです。

また、国民健康保険
証とマイナンバーカー
ドを紐づけている割合

の国民健康保険証(2
025年10月末までの
1年間有効)が健康保
険の加入者全てに郵送
されます。
その1年後の2022

「資格確認書」を発行する期
限について、国会では、
期限は決まっていない
と答弁しているがどう
なのか?に対し、市は

市民に安心するよう周知すべき

中林議員は、12月2
日以降も、「マイナ保険
証」であっても、今まで
通り医療をつけること
ができる「ことを市民
に周知すべき」と質しま
した。

は、国民健康保険の加
入者の52.9%です。
残りの47.1%、加入

マイナ保険証使われていない

病院での国保加入者
のマイナ保険証の利用
率は約13%で、8%が
マイナ保険証を使っ
ていない実態があります。
中林議員は、「現在の
保険証を廃止するのは
問題である。もともと、
マイナンバーカードの

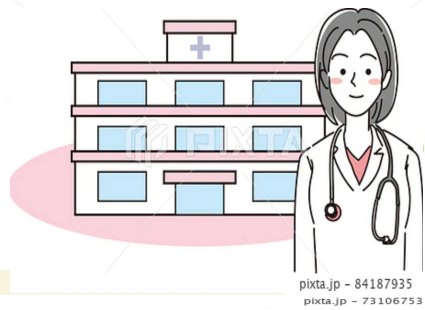
「当分の間ということ
で、明確な期限は聞い
ていない」との答弁で
した。



市は、「マイナ保険証
であるなしに関わらず、
医療をつけることにお
いて差異があつてはな
らないと考えている、
市民にも周知する」と
答弁しました。

者の半数近くがマイナ
保険証をもっていない
のが実態です。

発行も、発行した人が
医療保険の保険証と紐
づけることも任意で
あり、国民健康保険の
加入者の半数近くが紐
づけていない中での、保
険証の廃止は問題であ
る」と主張しました。
(裏面に続く)



国の保険証の紐づけ強要は 任意原則に反する

中林議員が委員会で国の問題を指摘

配慮を要する加入者への早期の対応を

中林議員は、障がいを持つ方や認知症の方など、暗証番号の管理も含めて、ご自身でマイナンバーカードの保管や5年ごとの更新ができない市民への対応について質しました。



中林議員の「国は、配慮を要する国民健康保険や後期高齢者医療の加入者に対し、事前の申請で資格確認証を発行するとしているが、配慮を要する人の具体的な範囲や手続きはい

つ示されるのか？」の質問に対し、市は、「まだ詳しいことが国で決まっていない」と答弁しました。

中林議員は、配慮を要する人が、保険証が使えるようになるようなことにならないように、早期の対応を求めました。

厚労省 マイナ保険証の推進に支援金まで

中林議員は、国の何があっても姿勢でマイナンバーカードと保険証の一体化を進めることは問題だと指摘しました。

マイナ保険証の利用人数に際して薬局等に最大10万円、病院に20万円を支給しています。

このキャンペーンによつて、「12月2日以降は、マイナ保険証がないと医療が受けられないのではないか？薬がもらえないのか？」と心配する人がでています。

資格確認書が発行されるまで、資格証明書の代わりになる証明書については、国や大阪府からの詳細連絡を待っているとのことでした。

市民の不安あおるような すすめ方は やめるべき

厚労省のキャンペーンに対して、全国の医療機関からは、「厚労省の進め方は、任意でのマイナカード取得に対して、保険証の紐づけを強要する形になり、任意原則に反している、矛盾だ。」との声が出ています。

党議員団にも、市民から「今後どうなるのか？」と心配する問い合わせがありました。中林議員は、国に対して、市民の不安をあおるようなすすめ方はやめるように市が要望することを求めました。

議員日誌



中林 かずえ

9月4日土曜日は、定例の葛原事務所での「暮らし何でも相談会」を午前10時半から開催、9時からは定例のモーニング、9時半からは3週間ぶりの「新鮮野菜市」も開催、私も参加させていただきました。8月31日土曜日は、好評のカレーライスでしたが、台風で相談会もモーニングも休みになり2週間ぶりの集まりでした。初参加の相談者が2人来られ、みんなでワイワイ食べるとびっくりするほど元気をいただきました。身体の様子を見ながら宣伝活動にも復

